

保護者様

横浜市立さつきが丘小学校
校長 仲川 由佳理

令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果報告

紅葉の季節、保護者の皆様にはますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

4月に6年生が実施しました全国学力・学習状況調査の結果をまとめました。ご報告いたします。調査結果をもとにして、個々の児童の課題を踏まえた授業改善等に取り組んでいきます。

1 学力学習状況調査結果から

平均正答率 (%)	国 語	算 数	理 科
本 校	66	67	68
横浜市	66	66	65
全 国	65.6	63.2	63.3

* 横浜市の平均正答率と国語、算数はほぼ同等。理科は3ポイント高い状況にありました。

【国 語】

- 「話し合いにおける発言の理由を適切に捉える」設問では、言葉の特徴を理解し正しく選択できていました。(+9ポイント)
- 「登場人物の相互関係について描写を基に捉える」設問では、物語の読み取りができています。(+10ポイント)
- ▲「ろくが(録画)」「はんせい(反省)」「したしむ(親しむ)」の漢字を正しく書くことができていない状況がありました。(-8~-13ポイント)無答の割合も多かったようです。

【算 数】

- 「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉える」設問では、正しく考察できる児童の割合が非常に高かったです。(+14ポイント)
- 「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める」設問は、正しくできていました。(+11ポイント)
- 図形を描くためのプログラムを正しく選ぶことができていました。ひし形の意味を正しくとらえています。(+7ポイント)
- ▲「正三角形を描くプログラムを正しく書き直す」設問では、問題の把握ができなかった児童が多かったです。(-3ポイント)次問題(2)以降は慣れてきたようです。
- ▲「 1050×4 の計算」では、計算ミスに気をつけたいです。(-4ポイント)

【理 科】

- 「昆虫の体のつくりを説明する」設問では、知識としてしっかり理解しています。(+10ポイント)昆虫についての知識理解度が高いです。
- 「凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見出された問題を書く」設問では、自分の考えを半数の児童が書いていました。(+10ポイント)実験を通して得た正しい知識を活用できています。
- 「鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、実験方法の見直しをする」設問では、自分の考えをもち8割の児童が正しく検討できていました。(+11ポイント)

- ▲反面、「日光が直進することを理解している」かを問う設問では、問題の意図をくみ取れない児童が多く、正答率は2割程度でした。(−6ポイント)
- ▲「鉄棒に付着した水滴と氷は、何が変化したものかを書く」設問では、正答率が低かったです。(−6ポイント) 日常における生活経験と理科的な知識、見方を結び付けて考えられるようにしたいです。

2 生活意識調査結果から

【チャート表より】

- 算数・理科への関心が高いです。学力にも表れています。
 - ▲反面、国語への関心は相対的に低く、学力も全国基準です。
 - ▲規範意識、自己有用感は、全国基準よりも低い傾向にあります。
 - ▲生活習慣・学習習慣についても同様の傾向が見られます。
- 児童の意識調査の結果を丁寧にみていく必要があります。ただし、突出した状況があるわけではなく、全体的にはっきりした意思を示すことができない傾向があります。

【児童質問紙結果より】

- (4) スマートフォン等の使い方について家の人との約束を守っているか。
→ 「スマートフォン等は持っているが、約束はない。」の割合が高いです。
- (6) スマートフォン等で1日当たり動画を視聴する時間について
→ 「30分より少ない」割合が高いです。(−15ポイント) 全体的に使用時間は少ないようです。
- (9) 将来の夢や目標をもっているか
→ 「どちらかといえば当てはまらない、当てはまらない」割合が高いです。(−10ポイント)
- (28) 今住んでいる地域の行事に参加しているか
→ 参加している児童は非常に少ないです。(−15ポイント)

3 まとめ

学習面での結果では、3教科すべて、平均または、平均を上回る結果でした。国語では、言葉の特徴を理解して正しく選択したり、物語の読み取りができていたりする一方で、漢字を正しく書くことができていない状況がありました。算数では、目的に応じてデータの特徴を捉え、正しく考察できる児童の割合が非常に高かったです。しかし、計算ミスや問題把握ができなかった様子も見られました。理科では、知識としてしっかり理解していたり、実験を通して得た正しい知識を活用し解答したりすることができていました。ただ、問題の意図をくみ取れない児童も見られ、日常における生活経験と理科的な知識、見方を結び付けて考えていけるように今後の指導に取り入れることが必要であると考えます。

意識調査の結果では、算数・理科への関心は高く学力にも表れていますが、国語への関心は相対的に低く、学力も全国基準となっています。重点的に国語を研究してきた本校としては、教師の指導の在り方を今一度振り返る必要性を痛感しています。また、規範意識、自己有用感は、全国基準よりも低い傾向にあり、生活習慣・学習習慣についても同様の傾向が見られました。スマートフォン等の使用に関しては約束のない家庭が多く、児童の判断に委ねられているようです。今後も家庭との連携を丁寧に築いていきたいと考えています。将来の夢や目標をもち、with コロナを意識して地域行事にもすすんで参加しながらコミュニケーション能力を耕し、子どもが主体的に活動する学校づくりを一層意識して取り組んでまいります。